



広報編集委員が頑張っている
人物やグループを紹介するページです

冬になると見かける「**凧**」。正方形を斜めにしたひし形は土佐凧がありませぬ。江戸後期から揚げられているその技術を香我美町土佐凧保存会は守り続けています。
担当/十萬眞明

香我美町土佐凧保存会

保存会は昭和47年、香我美町庁舎落成記念の凧揚げ大会をきっかけに作られました。会員は約30人で事務局長の長崎清さんによると「土佐凧の組織としては、後年伝わっていった野市と香我美だけ」だそうです。

世界の空で

会員の中には、日本凧の会の会員もおり、国内外の行事に参加しています。有名画家の絵を凧にして空に並べる、「アートカイト・フェスティバル」では、平成5年のカナダから3回、外国の空へ土佐凧を揚げました。シンプルな構造なのに一番揚がったと注目されたそうです。



折りたたみ式

凧の形は全国的には縦長が多く、ひし形は土佐凧しかありません。骨も基本的に4本で、水平に入る骨「**ポンプ**」を外せば、丸められるのも特徴です。シンプルな形だからこそ、各部のバランスが重要で、よく揚がる凧を作るのは手間がかかるそうです。

今のうちに

凧作りでは焼き出し用の火縄・竹カゴ・凧・絵など会員の得意なことを分担して作っています。骨に適した「すす竹」は遠くまで探しに行くとのことでした。凧糸にする麻の「ヤマ」をかけるのは面白いとい



「ポンプ」を外す 長崎清さん



凧糸の「ヤマ」

マ」は入手でできなくなったそうです。会員も高齢化し、今のうちに凧揚げの文化を伝えようと、子どもたちに凧作り教室も行っています。が、やはり後継者がいないのが悩みのようです。また、毎年1月下旬に行う凧揚げ大会の会場の徳王子は東部自動車道が建設されており、その影響も心配されています。

揚げてこそ

「昔は楽しみも少なく、掛け凧」で取った賞品の酒を皆で飲むのが楽しみだった。青い空に凧がいくつも揚がったらきれいやし、「ヤマ」をたぐって走り回って、長い「オバ」をかけるのは面白いといと長崎さん。

高知の冬の風物詩。大空を舞う土佐凧の優れた技術がこれからも守られていくことを願わずにはいられません。

編集後記

「オトナ」という言葉に憧れや反発を持ちながら、だれもが迎える成人の日。まちの成人式には、たくさんの笑顔が輝きあふれていました。その笑顔がもつと素敵に、もつと自信に満ちていきますように！みんなガンバレ！（井）

野市の凧揚げ大会に参加。息子と一緒に凧揚げをするのは初めてで、昔やった記憶を頼りに凧の「オバ」などを微調整。この日は微風でなかなか上手く揚がらない。そこへ、おじさんが来て「ちょこちょこ」と糸の張り具合などを調整すると、見事に揚がり、すねていた息子は大喜びでした。おじさんに感謝。（m）

土佐凧保存会の長崎さんは、凧以外にメジロを呼ぶ名人です。市の鳥に決まった「めじろ」を撮っておきたいと思い、呼んでもらうと10羽程がすぐに集まってきました。すごい光景でした！（N）

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi-konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-konan.lg.jp